

| | | | |
|-----|---------------|------|--|
| 科目名 | 運動器障害理学療法学演習Ⅱ | 担当教員 | 小林 巧※ 野陳 佳織※ 神成 透※ 角瀬 邦晃※ ※印は実務経験のある教員を示す。 |
|-----|---------------|------|--|

| 開講専攻 | 分野 | 種別 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
|-----------|------------------------|----|------|------|-----|------|
| 理学療法学専攻 | 専門科目 | 選択 | 3年次 | 後期 | 1単位 | 演習 |
| ナンバリングコード | 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | | | | | |
| HR31E | ②、③ | | | | | |

| | |
|------|---|
| 科目概要 | 「運動器障害理学療法学演習Ⅰ」の内容を踏まえ、各疾患の急性期・回復期・慢性期における理学療法が行えるようになるための考え方を身につけることを目的とする。各疾患の急性期・回復期・慢性期における、リスク管理や治療アプローチはそれぞれ異なるため、実際の臨床場面における各疾患の患者を想定し、必要な評価・治療アプローチを選択できる知識・思考を身につける。 |
| 学習目標 | ① 代表的な運動器疾患を有する患者に対する一連の理学療法評価を理解できる。 ② 代表的な運動器疾患を有する患者に対するリスク管理を理解できる。 |

| 回 | 項目 | 主な学習内容 | 到達目標 | 実務経験 教員担当 項目 |
|----|----------------|---------------|---------------------------------------|--------------------|
| 1 | 総論 | 運動器疾患のケーススタディ | 運動器疾患に対するケーススタディの流れを理解する。 | 小林巧 野陳 |
| 2 | グループワーク 1 | プレゼンテーション資料作成 | 担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。 | 小林巧 野陳 |
| 3 | グループワーク 2 | プレゼンテーション資料作成 | 担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。 | 小林巧 野陳 |
| 4 | グループワーク 3 | プレゼンテーション資料作成 | 担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。 | 小林巧 野陳 |
| 5 | グループワーク 4 | プレゼンテーション資料作成 | 担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。 | 小林巧 野陳 |
| 6 | グループワーク 5 | プレゼンテーション資料作成 | 担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。 | 小林巧 野陳 |
| 7 | グループワーク 6 | プレゼンテーション資料作成 | 担当疾患に関するプレゼンテーション資料を作成する。 | 小林巧 野陳 |
| 8 | プレゼンテーション 1 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 神成 |
| 9 | プレゼンテーション 2 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 神成 |
| 10 | プレゼンテーション 3 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 神成 |
| 11 | プレゼンテーション 4 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 神成 |
| 12 | プレゼンテーション 5 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 角瀬 |
| 13 | プレゼンテーション 6 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 角瀬 |

| | | | | |
|---------------------------------|------------|--|---------------------------------------|-----------|
| 14 | プレゼンテーション7 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 角瀬 |
| 15 | プレゼンテーション8 | プレゼンテーション | 担当疾患に関するプレゼンテーションを実施し、適切にディスカッションできる。 | 小林巧 角瀬 |
| 評価方法 | | プレゼンテーション（70%）・講義に対する姿勢（30%） | | |
| 課題に対するフィードバック | | プレゼンテーションを通してフィードバックする。 | | |
| 教科図書 | | 細田多穂・編『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版』南江堂、2016年 | | |
| 参考図書 | | 医療情報科学研究所・編『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』メディックメディア、2017年 工藤慎太郎・著『運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略』医学書院、2017年 整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション』メジカルビュー社、2014年 石井慎一郎・監『膝関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018年 片寄正樹・監『足部・足関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018年 永井聡、他・編『股関節理学療法マネジメント』メジカルビュー社、2018年 石川朗、他・編『運動器障害理学療法学 I・II 15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト』中山書店、2011年 相澤純也・監『クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる!』羊土社、2017年 | | |
| 学習の準備 | | 1（予習）運動器障害理学療法学、運動器障害理学療法学演習Ⅰの内容を予習しておくこと（30分） 2（復習）講義内で学んだ内容について整理すること（15分） | | |
| オフィスアワー | | 月曜日 13時~14時半、その他在室時はいつでも可 | | |
| 担当教員欄に※印を付した教員の 実務経験 | | 小林巧は、病院で運動器疾患に対する理学療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。 | | |